

長崎における草創期の幼稚園教育 第3報

前田 志津子, 本村 弥寿子*, 山本 尚史**

Kindergarten of Education in Nagasaki in the beginning (Third Report)

Maeda Shizuko, Motomura Yasuko, Yamamoto Hisashi

Abstract

This paper summarizes previous reports about the establishment of kindergarten education in Nagasaki including, at the invitation of Kurahashi, “Pre and post-war Nursery Care in Nagasaki - an overview from reconstruction to the present” by Yoshihiro Araki, principal of Tamazono Kindergarten, Nagasaki. The authors report on the progress they are making on what can be learned from this material.

Keywords: Kindergarten education in Nagasaki; post-war reconstruction.

1. はじめに

本研究は、終戦後の長崎における幼児教育の復興の様子を、幼稚園の再開状況を明らかにしながら整理することを目的としている。筆者らはこれまで長崎における草創期の幼稚園教育に関して、日本保育学会第69回大会（2016）において「長崎における草創期の幼稚園教育」を発表した。この発表から見てきたのは、活水学院と西南学院との関係である。具体的には活水学院と西南学院の卒業生たちが長崎、そして福岡の幼児教育の草創期において活躍をしていたことが明らかになった。それを基に、「長崎における草創期の幼稚園教育と活水学院」を活水論文集第60集（2017）に発表している。

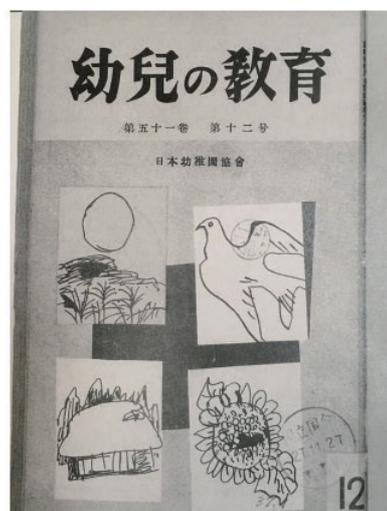
続いて日本保育学会第70回大会（2017）では、「長崎における草創期の幼稚園教育 第2報」として発表した。第2報では、先の活水論文集第60集（2017）に掲載した長崎における草創期の幼稚園教育と活水学院に加え、当時の長崎市内中心部の玉園（たまごの）幼稚園園長の荒木嘉弘氏が、倉橋惣三より依頼を受け執筆した「終戦前後の長崎保育界から－復興の現在概要－」を見つけることができ、その内容から当時の復興する幼稚園の所在地を地図上に示し確認している。

そこで本研究では、荒木嘉弘氏の論考を再度検証し、そこから判明する長崎市内における幼稚園の再開状況を整理し、筆者らのこれまでの研究を補い、長崎における幼児教育の復興状況を明らかにしたい。

*長崎女子短期大学

**筑紫女学園大学

2. 「終戦前後の長崎保育界から―復興の現在概要―」



『幼児の教育』

1952(昭和27)年
12月刊行

上記は、幼児の教育1952（昭和27）年12月号に掲載されている。本研究では荒木の論考の紹介を、その目的の一つとしているので、その内容を以下に記す。

倉橋惣三先生よりの御指名を受けましたので、不敏にも顧みず書かせていただきます。長崎市を中心に県下の保育状況の概要と、活発な現在の復興までの経緯を述べますには先ず、原子爆弾の被害から申し上げます。

昭和20年8月9日は、晴天一点の雲一つない暑い暑い日でした。午前11時爆音の響きに次いで同2分、閃光一線、全長崎は崩壊せられ落下中心地より、7、800米以内は即座に発火大火災となり、千米位の場所も相当の熱気を受けている（7千度）為延焼早く見る見る焼野原と化して行きました。（中略）

悲しき哉、城山町は、中心地より、5、6百米にあり、城山幼稚園主下川竜爾先生御夫妻は御孫様と共に倒壊園舎の下敷きとなり即死せられました。園舎も一物も残さず（コンクリートの門柱や、水道の鉄管の焼けたのが残ったきり）全焼しました。信愛幼、純心幼、浦上養育園は、城山と方向がやゝ異なっているのが中心地から千米以内の近距離のため全焼外、聖母幼、肥長幼、慶華幼、長崎幼共全焼に遭われました。大破したのが、玉ぞの幼、稲佐幼、小破清心幼、桜丘、女専附属保育園でありました。（中略）

市内各幼稚園共空襲が頻繁なので夏の幼稚園を一切せず、休園でしたため、園舎の損害は多かったですのですが、人の死傷数は少なくすみました。（中略）

私共玉ぞの幼は西方80米のところ、（原爆火災延焼が迫りましたが）喰いとめ得ましたので焼失を免れたのですが、さあ修理に取掛ろうとしても、天井は全部落下、壁は破れ、戸障子はどこへ飛んだか散って、ガラス粉が一面砂をまいたように散らばって足のふみ入れるすきがなく、家財も壊れたり、倒れたり、主柱も傾斜していて、家具も残ったのは開閉が自由でなく、電燈瓦斯水道は、破損で使用不能、疎開した解体家屋古材料の持合わせで倒れかゝりの家を起して住めるだけの応急処置を施しました。（中略）

やっと12月1日、再開の新聞広告を出しました。何分園具が一切そのまゝ（多少の破損はあり）運動遊具が全部無事でした。昭和14年正月完成し、一度幼児教育に掲載させていただきました。鉄製の総合大遊具は、鉄回収の命令が出て8月11日に取除きに工作班が見えることになっ

ていたものでしたが、原爆が2日早かったので残置となり、一同喜んでいきます。(中略)

4月始め180名、在籍者が7月には疎開その他で40名程になっていたのが、37名復帰し通園しました。昭和21年4月には直に100名まで復帰しました。全焼の幼稚園は勿論開園の見込み立たずに20年を終えました。

昭和21年4月から市立長崎幼稚園は市内今籠町の大音寺の一室を借用して保育を開始、市立桜丘幼は大修理ですみ、保育開始稲佐幼、清心幼、夫々修理して開始され、全焼した信愛と純心は新築して22年4月開園され、23年秋から諏訪神社に諏訪幼(園長管貞幸)が創立され、戦時中被害で一時休園中の親愛幼は、保育所として発足され15年増改築され24年には休園中の鮑浦幼(園長山口初子)が復活開園され、厚生省の奨励による市立保育所が市内5カ所に立ち、私立保育所5カ所が新設或は再起されました。25年には県立保育所が、県立女子短大附属幼に設立替され、寺町皓台寺に皓台寺幼が設立され、従来高女であった鶴鳴新制高等学校、又玉木新制高等学校共に附属として鶴鳴幼、玉木幼が27年4月開園され、カトリック教会で市中央袋町にカトリックセンター幼を開園されました。更に目下3カ所園認可申請中であります。

結局本年末までにはいずれも認可を確信するとして長崎市には〔幼稚園〕県立1 市立2 私立14 計17カ園〔保育所〕市立7 市立8 計15カ園となります。

長崎市保育会

昭和8年創立で、会長には歴代市長を推戴、副会長に助役と早田隆次(長崎市立長崎幼稚園長)幹部に下川竜爾、伊藤つる、向井まゆみ、松尾利信、高島スミ、笹森とし、の諸氏が主役で活動されたのですが、保育園側は、夏季の保育講習会に一部参加される程度で殆ど幼稚園のみの保育会に見えました。

昭和18年年戦時託児所併設の勧誘が県よりあり、併設したのは信愛幼と玉ぞの幼だけで終戦後は信愛は保育所1本になり、玉ぞのは幼稚園1本になりました。(中略)昭和24年には長崎県保育会も復活し、長崎学芸大学附属幼主事松島主事を会長に、佐世保比良幼、有浦俊一、長崎桜丘幼大場久子園長副会長、県下を5支部に分ち、長崎市保育会は結局長崎県保育会の支部となり支部長に荒木就任、25年は会長に松岡主事就任され、島原で総会と遊戯講習、昨年は平戸幼で総会及び講習会を、本年は雲仙で総会並びに講習(心理と遊戯)を開催、130名参加で盛会だった由(私は原爆の影響といわれています微恙中で残念乍ら欠席)町立平戸幼伊藤伊藤佳子園長、島原幼渡部義正園長等の御熱心で遂行されつゝあります。昨年は又フレーベル百年記念行事として講演会と、県下数カ所持ち寄り移動幼児絵画展を催しました。

別途長崎県内私立幼稚園では、私学法の制定により日本私幼連も連絡をとり、18カ園が私幼協会を樹立し、長崎県の私学審議会委員会に玉ぞの幼荒木を推薦、知事より任命があり就任しています。

戦災後未復旧の園は城山幼、慶華幼、聖母幼、と肥長幼3カ園と、疎開のまゝの玉の江幼と4カ園であります。又市立長崎幼稚園は、大音寺の一部を借用し不自由な中に山口菊代園長の熱心により既に元の袋町に新築せらるる様に市会でも予算を通過されたと承っているのです。近く内外共整ったモデル幼稚園の出現されるのも間近だろうと期待しています。(学校法人玉ぞの幼稚園長)

この史料から、玉ぞの幼稚園園長の荒木嘉弘は倉橋からの原稿依頼を受けて、書いたものであることが分かる。そこには「倉橋惣三先生よりのご指名を受けましたので、不敏にも顧みず書かせていただきます」とあり、長崎市の保育状況の概要と、活発な当時の復興までの経緯が書かれている。また、長崎の保育の現状として市立長崎幼稚園が保育を開始したことと、同じく長崎市立桜丘幼稚

園が原爆で損壊したものの修理を終えて保育を再開していることが分かる。また今も残っているいなさ幼稚園などの様子が伝えられている。その当時の園の数も具体的に示されており、幼稚園17園、保育所が15園とある。

そこで、荒木氏の玉ぞの幼稚園は、現玉園町3-73となっているので、その場所を訪ねてみた。すると、聖福寺駐車場の看板が立っているその場所に玉ぞの幼稚園は存在していたということになる。



写真1
玉ぞの幼稚園がここに在った。



写真2
旧地名は筑後町である。



写真3
中央に玉園町3と表示がある。

3. 1952（昭和27）年当時保育を再開した幼稚園

荒木の論考をもとに、長崎の幼稚園復興開園状況を整理すると、表1のようになる。さらにその園の所在地を図1のとおり地図上に示す。

表1 長崎の幼稚園復興状況（記述された文章より判明分）

園名	創立	園長名	所在地	原爆による影響	復興状況
城山幼稚園		下川竜爾	城山町 爆心地より500~600 mで最も近い位置で ある。	全焼	未復旧
信愛幼稚園	1908（明 治41）年	中島アイコ	上野町214番地 現上野町10-24	全焼	1947（昭和22）年新築 し開園
純心幼稚園	1937（昭 和12）年	大泉はる	家野町171番地	全焼	1947（昭和22）年新築 し開園
浦上養育園		—	—	全焼	—
聖母幼稚園		—	—	全焼	未復旧
肥長幼稚園		—	—	全焼	未復旧
慶華幼稚園	—	—	—	全焼	未復旧
長崎市立 長崎幼稚園	1887（明 治20）年	山口菊代	袋町（現栄町）9番 地	全焼	1946（昭和21）年 大音寺の一室を借用し て開始
玉ぞの幼稚園	1930（昭 和5）年	荒木嘉弘	上筑後町25番地 現玉園町3-73	大破	1946（昭和21）年4月 復帰、この時点で園児 100名

稲佐幼稚園	1927（昭和2）年	松尾利信	稲佐町1丁目148	大破	1946（昭和21）年 修理後開始
清心幼稚園	1935（昭和10）年	奥村さく	南山手町16番地	小破	1946（昭和21）年 修理後開始
長崎市立 桜丘幼稚園	1880（明治19）年	清水輝二	上長崎村桜馬場郷へ 移転 1883（明治22）年	大破	1946（昭和21）年 大修理後開始
女専 附属保育園	—	—	—	大破	—
諏訪幼稚園	1947（昭和22）年	管 貞幸	上西山町3番地	戦後設置	1948（昭和23）年創立
飽浦幼稚園	1924（大正13）年	山口初子	飽ノ浦町2-198番地	戦時中休園	1949（昭和24）年、復活開園
皓台寺幼稚園	1951（昭和26）年 認可	小松原国乗	寺町1番地	戦後設置	1950（昭和25）年設立
鶴鳴幼稚園	1952（昭和27）年	原田アサ	上小島町67番地	戦後設置	1952（昭和27）年4月開園
玉木幼稚園	1951（昭和26）年	玉木ますみ	愛宕町1番地	戦後設置	1952（昭和27）年4月開園
カトリックセンター幼稚園	1952（昭和27）年	浜口庄八	袋町	戦後設置	1952（昭和27）年4月開園

（表中の下線部で示した箇所は筆者らが加筆したものである。）

上記のとおり、荒木嘉弘氏の論考から判明した復興、開園状況を示した。なお文中には、あと3カ園認可の申請をしていると記されている。保育を再開した園の多くが、「全焼」「大破」という状況であり、長崎の幼児教育が困難な状況に置かれたことがよく分かる。しかし、このように戦後早くに復興できたことは、幼児教育に従事する者の、幼児教育に対する熱意の賜物であると考えられる。また、倉橋が遠く長崎の一公立幼稚園の園歌を作詞（1948（昭和23）年）したことによっても、長崎の幼児教育従事者の志を一層高めることにつながったのではないだろうか。

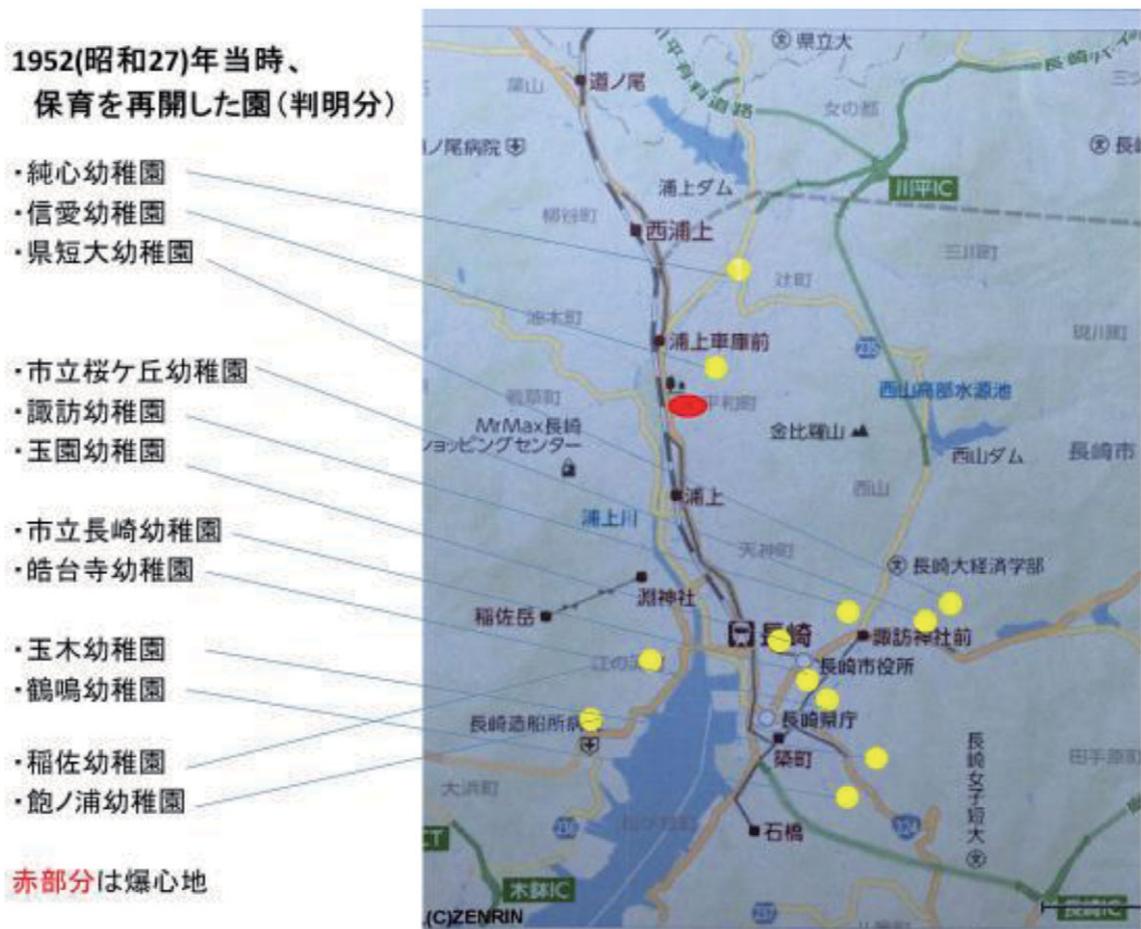


図1 長崎市内の幼児教育復興状況

yahoo japan において提供されている地図をもとに作成

4. 今後の課題

一つには、表1には荒木氏の文章からの読み取れる復興、再開、開園状況を述べたが、現存している幼稚園について当時の園長名も含めて所在地、復興の状況等を聴き取り、さらに明確にしていきたい。そして今回、復興、再開、開園状況を調べていくなかで、1906（明治39年）創立、活水附属玉の江幼稚園の存在が分かり始めた、よってこの点についても明らかにしていく。

二つには、これまでの課題である倉橋の戦前、戦後の教育観と長崎の幼稚園教育への影響についてさらに深めていく。そこから長崎市立長崎幼稚園園歌の歌詞に込められた倉橋の想いを紐解いていく。

三つ目には、これまでの研究において登場した幼児教育関係者の教育理念から今日的課題を見出していく。以上が今後の課題である。

5. おわりに

第3報の推敲にあたって荒木嘉弘氏の論考を基に長崎における草創期の幼稚園教育について、特に終戦前後の幼稚園の状況を可能な限り述べている。この取り組みのなかで、多くの幼児教育に従事する方々のおもいを受け止め、学ぶことが、保育の原点に立ち返ることとなるであろう、そしてそれを保育・教育の今日的課題につないでいくことが大事であると考えている。

謝辞

終戦前後の長崎市の保育状況を述べるには、原爆により史料は焼失しているため、困難である。しかしながら、友愛社会館幼稚園前園長山口秀樹先生より、『あなたが大事－飽の浦幼稚園の歩み－』をいただいた。また、いなさ幼稚園園長田中元子先生より貴重な文献を紹介いただいた。ここに附して感謝申しあげる。

参考文献

- (1) 荒木嘉弘「終戦前後の長崎保育界から－復興の現在概要－」『幼児の教育 第51巻 第12号』1952年。
- (2) 長崎県私立幼稚園協会『長崎県私立幼稚園名鑑』1959年
- (3) 長崎県市立学校連合会『私立学校法30周年記念誌長崎県の私学』1979年
- (4) 飽の浦幼稚園『あなたが大事－飽の浦幼稚園の歩み－』1997年
- (5) 前田志津子、本村弥寿子、山本尚史「長崎における草創期の幼稚園教育と活水学院」『活水論 文集 (60) 健康生活学部編』2017年 97-105頁